

YAMAHA
MIXING CONSOLE
MG06X
MG06 取扱説明書

VHM5480
保証書付

ごあいさつ

このたびは、ヤマハミキシングコンソールMG06X / MG06をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。MG06X / MG06 のさまざまな機能を十分に活用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。また、お読みになったあとも、大切に保管いただきますようお願いいたします。

*本書では、ミキシングコンソールを「ミキサー」と呼びます。

**本書では、イラストはMG06Xを使用しています。

特長

- 入力端子にマイク入力やステレオ/モノラルのライン入力を備えた6チャンネルミキサー。
- 高音質を実現するヤマハ プレミアムヘッドアンプ[D-PRE]の搭載。
- チャンネル1/L、2/Rに、幅広い入力に対応するPADスイッチを搭載。
- (MG06X) ヤマハSPXグレードの高音質なエフェクトを6種類内蔵。

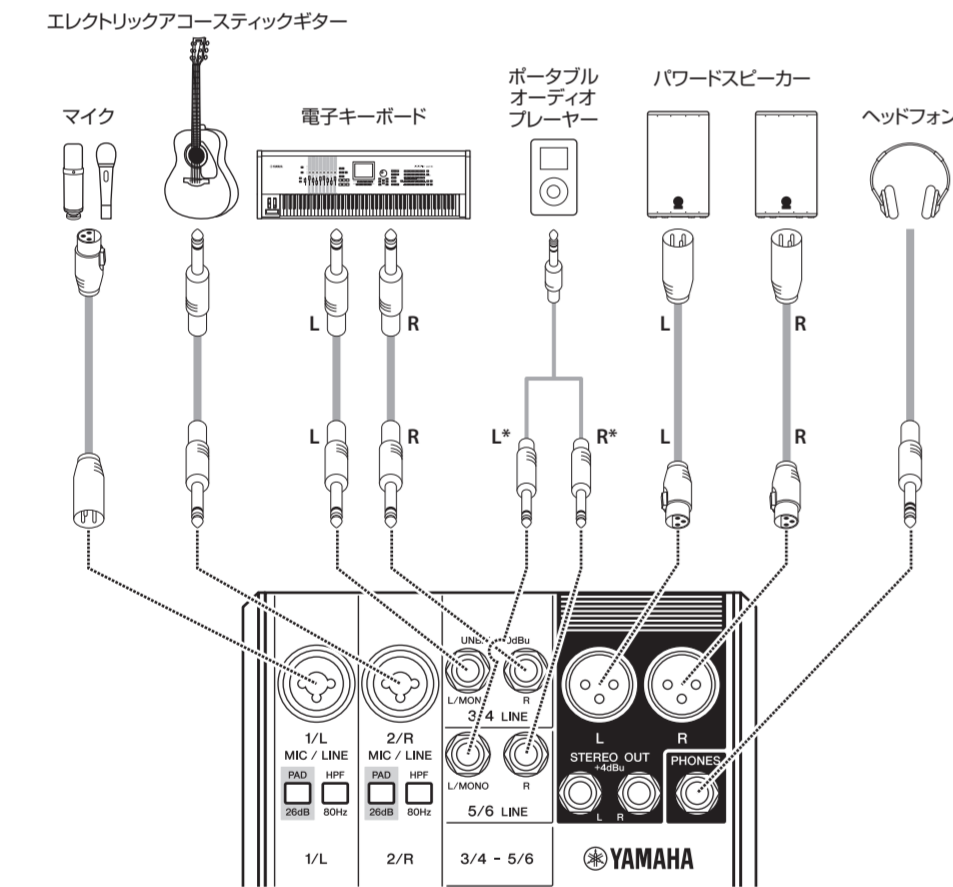
付属品(お確かめください)

- 電源アダプター
- Technical Specifications (英語) : ブロック図、寸法図、一般仕様、入出力仕様が記載されています。
- 取扱説明書(本書) : 保証書は、裏面にあります。

クイックスタートガイド

STEP 1 スピーカー、マイク、楽器などを接続する

接続例

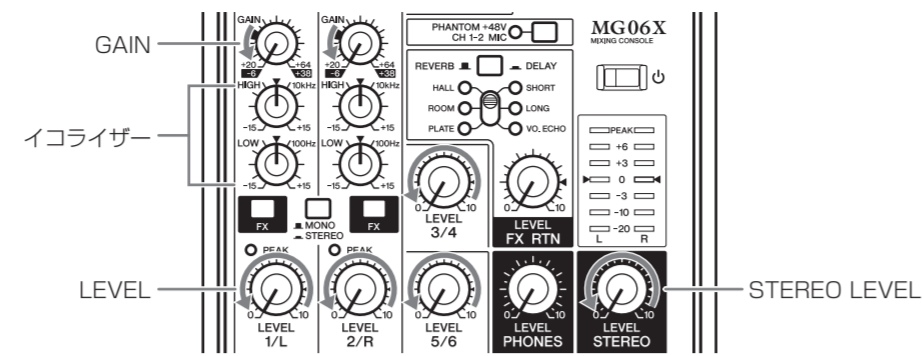


*ステレオミニプラグにはフォンプラグ対応の変換プラグが必要です。

STEP 2 スピーカーから音を出す

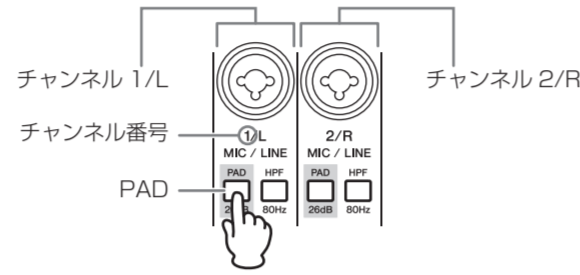
- 1 本体の[ON]スイッチを含む、すべてのスイッチが押されていないこと(■)を確認します。
- 2 付属の電源アダプターを接続します。
本体背面のDC IN [12V]端子に接続してから(①)、コンセントに接続します(②)。
- 3 [GAIN] ツマミ(白)、[LEVEL] ツマミ(白)、[STEREO LEVEL] ツマミ(赤)を左に回しきります(最小にします)。イコライザーつまみ(緑)をセンター位置「▼」に合わせます。

右上のイラストを参照してください。➡

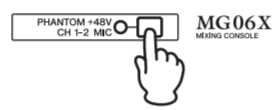


- 4 チャンネル1/L、2/Rに出力レベルの大きい機器(例: CDプレーヤー、電子キーボード)を接続したときは、各チャンネル*の[PAD]スイッチをオン(■)にします。

*チャンネル: 音を入力する場所



NOTE コンデンサーマイクを使用する場合は、[PHANTOM +48V]スイッチをオン(■)にします。



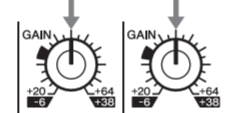
- 5 (マイク)、(楽器)、(オーディオ機器) ➡ 本体の[ON]スイッチ ➡ (スピーカー)の順に電源をオンにします。

注記 スピーカーから大きなノイズが出ないようにするため、上記の順に電源を入れてください。電源をオフにするときは、逆の手順で行なってください。

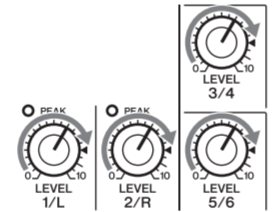
- 6 [STEREO LEVEL] ツマミを「▲」の位置に合わせます。



- 7 マイクを接続したチャンネルの[GAIN] ツマミを12時の位置に合わせます。



- 8 マイク、楽器、オーディオ機器で音を出しながら、[LEVEL] ツマミを回して各チャンネルの音量を調節します。



- 9 必要に応じて、スピーカーやパワーアンプの音量を調節します。
音が出れば、完了です。音が出ない場合は、手順10に進んでください。

注記 電源をオフにするときは、スピーカーから大きなノイズが出ないようにするため、スピーカー(パワーアンプ)→本体→楽器などの音源の順に電源をオフにしてください。

- 10 音が出ない場合や、音量を調節したい場合は、以下の枠内の操作を行ないます。
以下の操作を行なっても音が出ないときは、裏面の「困ったときは?」のチェック項目を確認してください。

■ 音が出ない、音量を大きくしたい

- 1 [PEAK] LEDが一瞬点灯する程度まで[GAIN]ツマミを右に回します。

NOTE [GAIN]ツマミを右に回しても[PEAK]LEDが点灯しない場合は、楽器などの音源の音量を上げてください。

上記の手順で音が出ない、または音量が大きくなりすぎる場合

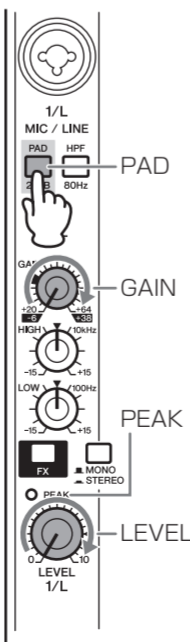
- 2 [PAD]スイッチがオン(■)になっている場合は、[LEVEL]ツマミを左に回して「0」(最小)にしてから、オフ(■)にします。
- 3 [LEVEL]ツマミを徐々に右に回して音量を調節します。

■ 音量を小さくしたい

- 1 [LEVEL]ツマミを左に回して「0」(最小)にしてから、[PAD]スイッチをオン(■)にします。
- 2 [LEVEL]ツマミを徐々に右に回して音量を調節します。

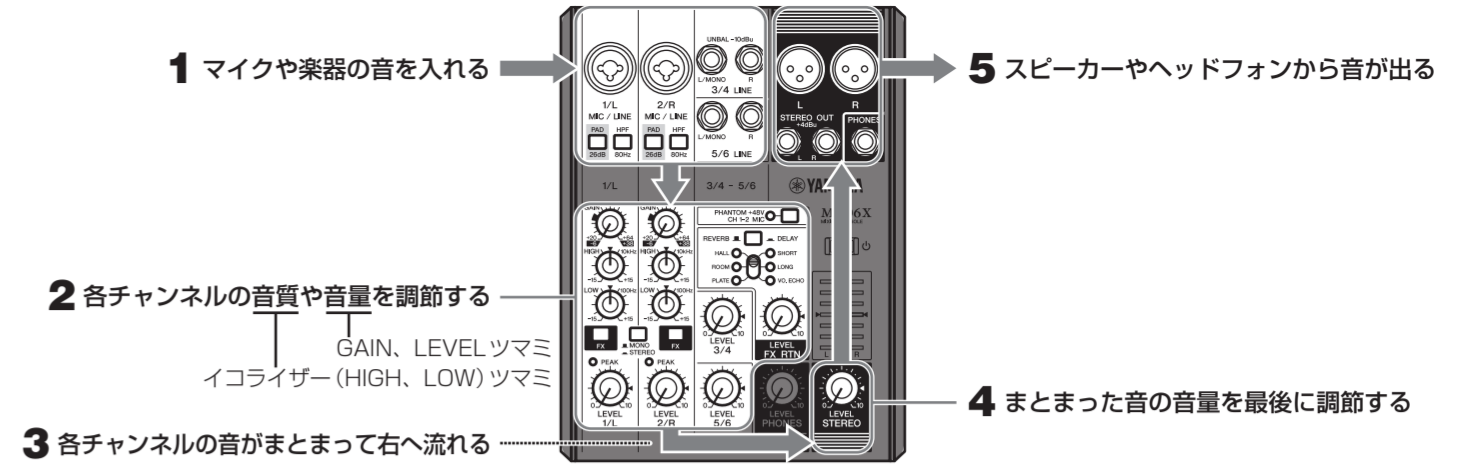
上記の手順で音量が小さくなりすぎる場合

- 3 楽器やオーディオ機器の音量を下げます。



ミキサーの基本: 音の流れ

右の説明イラストは、チャンネルに入力した音が1つにまとまって、スピーカーやヘッドフォンから音が出るまでの音の流れを示しています。
入力した音がミキサーの中でどのような経路で流れていくかを理解しましょう。



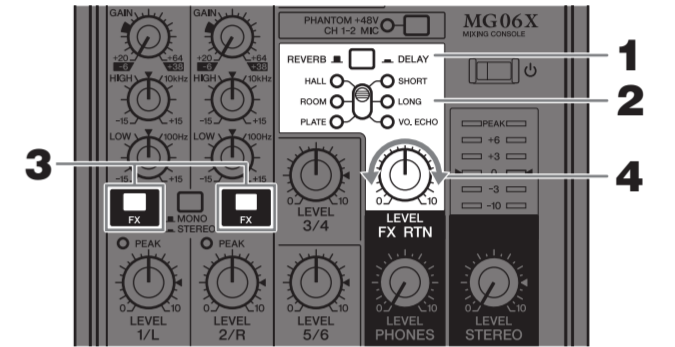
エフェクトをかける(MG06X)

MG06Xは、ヤマハマルチエフェクターSPXシリーズと同クラスのリバーブ(残響音)とディレイ(遅延)のエフェクトを内蔵しています。以下の手順でエフェクトをかけることによって、コンサートホールやライブハウスで演奏しているような音の広がりや響きが得られます。

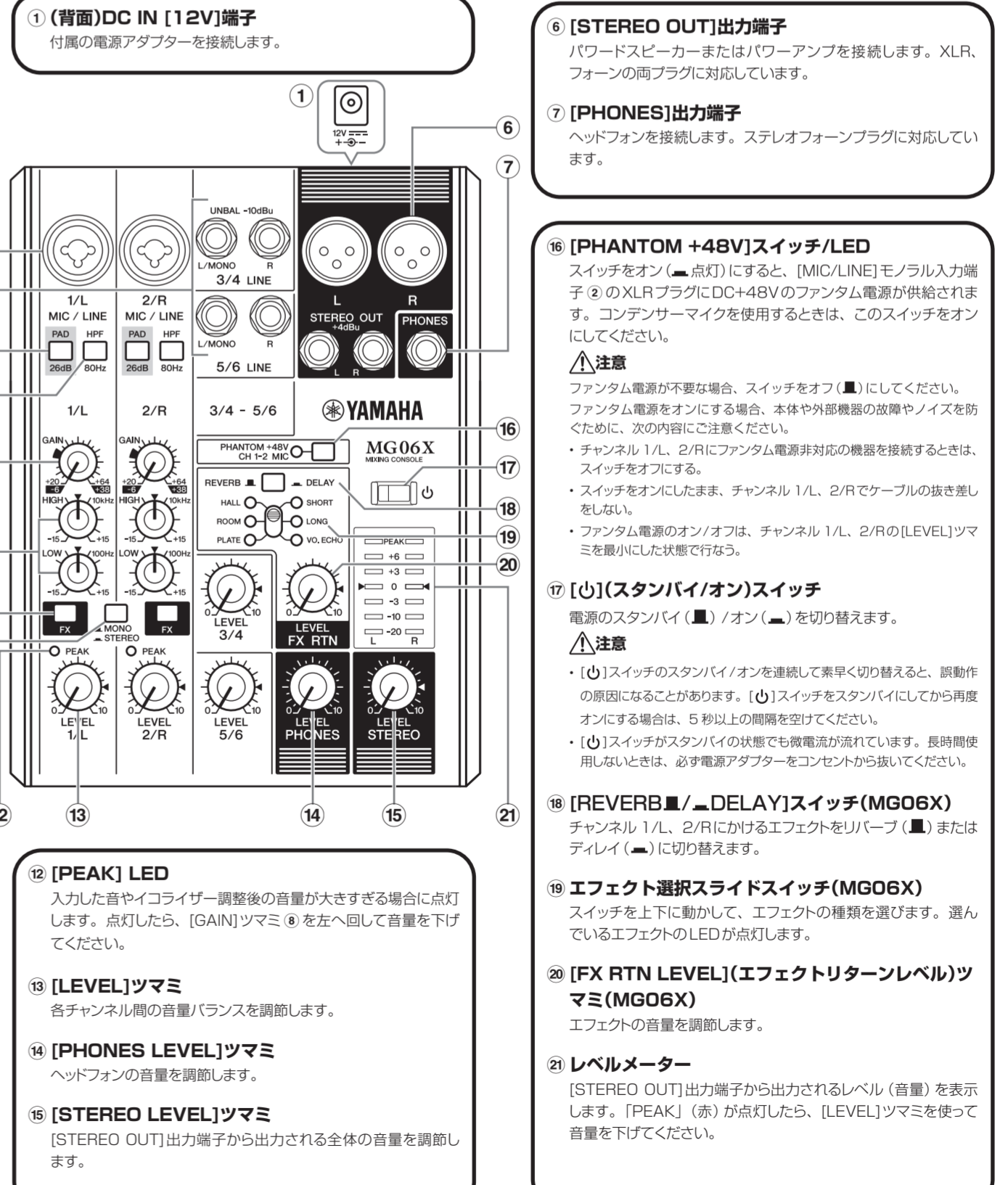
- 1 [REVERB] / [DELAY]スイッチを使って、リバーブ(■)またはディレイ(■)を選びます。

エフェクトの種類	内容	
REVERB (リバーブ)	HALL	コンサートホールをシミュレートした残響音
	ROOM	小さな空間(部屋)での響きをシミュレートした残響音
	PLATE	鉄板エコーをシミュレートした残響音
DELAY (ディレイ)	SHORT	音が二重(ダブリング)に聞こえる短いエコー
	LONG	音が繰り返し響きながら小さくなる、やまびこ効果のエコー
	VO.ECHO	カラオケ用途に最適なエコー

- 2 エフェクト選択スライドスイッチを上下に動かして種類を選びます。
選ばれているエフェクトのLEDが点灯します。
- 3 エフェクトをかけたいチャンネル(1/Lまたは2/R)の[FX]スイッチをオン(■)にします。
- 4 [FX RTN LEVEL]ツマミを回して、エフェクトのかかり具合を調節します。



各部の名称と機能



- 12 [PEAK] LED
入力した音やイコライザー調整後の音量が大きすぎる場合に点灯します。点灯したら、[GAIN]ツマミ⑧を左へ回して音量を下げてください。
- 13 [LEVEL]ツマミ
各チャンネル間の音量バランスを調節します。
- 14 [PHONES LEVEL]ツマミ
ヘッドフォンの音量を調節します。
- 15 [STEREO LEVEL]ツマミ
[STEREO OUT]出力端子から出力される全体の音量を調節します。

- 16 [PHANTOM +48V]スイッチ/LED
スイッチをオン(■点灯)にすると、[MIC/LINE]モノラル入力端子②のXLRプラグにDC+48Vのファンタム電源が供給されます。コンデンサーマイクを使用するときは、このスイッチをオンにしてください。
⚠注意
ファンタム電源が不要な場合、スイッチをオフ(■)にしてください。ファンタム電源をオンにする場合、本体や外部機器の故障やノイズを防ぐために、次の内容にご注意ください。
• チャンネル1/L、2/Rにファンタム電源非対応の機器を接続するときは、スイッチをオフにする。
• スwitchをオンにしたまま、チャンネル1/L、2/Rでケーブルの抜き差しをしない。
• ファンタム電源のオン/オフは、チャンネル1/L、2/Rの[LEVEL]ツマミを最小にした状態で行なう。
- 17 [ON]スイッチ
電源のスタンバイ(■) / オン(■)を切り替えます。
⚠注意
• [ON]スイッチのスタンバイ/オンを連続して素早く切り替えると、誤動作の原因になることがあります。[ON]スイッチをスタンバイにしてから再度オンにする場合は、5秒以上の間隔を空けてください。
• [ON]スイッチがスタンバイの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは、必ず電源アダプターをコンセントから抜いてください。
- 18 [REVERB] / [DELAY]スイッチ(MG06X)
チャンネル1/L、2/Rにかけられるエフェクトをリバーブ(■)またはディレイ(■)に切り替えます。
- 19 エフェクト選択スライドスイッチ(MG06X)
スイッチを上下に動かして、エフェクトの種類を選びます。選んでいるエフェクトのLEDが点灯します。
- 20 [FX RTN LEVEL](エフェクトリターンレベル)ツマミ(MG06X)
エフェクトの音量を調節します。
- 21 レベルメーター
[STEREO OUT]出力端子から出力されるレベル(音量)を表示します。「PEAK」(赤)が点灯したら、[LEVEL]ツマミを使って音量を下げてください。

困ったときは？

販売店や修理ご相談センターにお問い合わせになる前に、下記をご確認ください。症状が改善しない場合は、ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

電源が入らない

- 電源アダプターをコンセントに正しく接続しましたか？
- 電源プラグを奥まで差し込みましたか？

音が出ない

- パワードスピーカーやパワーアンプの電源をオンにしましたか？
- マイクなどの外部機器やスピーカーを正しく接続しましたか？
- 接続ケーブルがショート (断線) していませんか？
- 各チャンネルの [LEVEL] ツマミや [STEREO LEVEL] ツマミを適切に調整しましたか？
- [PAD] スイッチがオン (■) になっていませんか？
- スイッチをオフ (■) にしてください。音源からの音量が小さい場合、オン (■) にしていると、音が聞こえないことがあります。

音が歪む、雑音が入る

- 各チャンネルの [GAIN] ツマミ、[LEVEL] ツマミ、または [STEREO LEVEL] ツマミが上がりすぎていませんか？
- [PEAK]LED が点灯していませんか？各チャンネルの [LEVEL] ツマミや [STEREO LEVEL] ツマミを調整してください。
- [PAD] スイッチがオフ (■) になっていませんか？スイッチをオン (■) にしてください。音源からの音量が大きい場合、オフ (■) にしていると、音が歪むことがあります。
- 本体に接続した機器の音量が大きすぎませんか？接続した機器の音量を下げてください。

ボーカルやスピーチの声をはっきりさせたい

- [HPF] スイッチをオン (■) にしてください。音声クリアになります。
- イコライザー (EQ) ツマミを調整してください (例：LOW を下げる、HIGH を上げる)。

エフェクトがかからない (MGO6X)

- [FX] スイッチをオン (■) にしましたか？
- 各チャンネルの [LEVEL] ツマミは上がっていますか？
- [FX RTN LEVEL] ツマミを適切に調整しましたか？

マイクスタンドへの固定

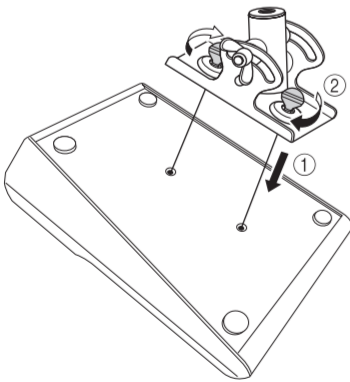
▲注意

- マイクスタンドが倒れると、機器の損傷やけがをすおそれがあります。接続ケーブルをマイクスタンドに沿ってマイクスタンドの設置面までおろすなどの対策をしてください。

注記

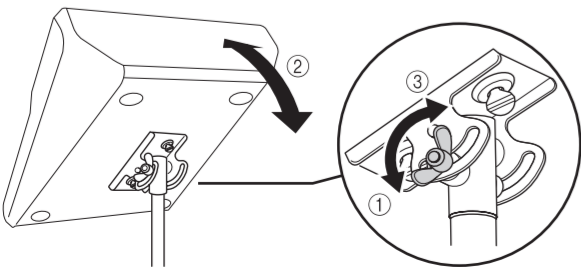
- マイクスタンドの設置は、水平かつ安定した場所を選んでください。また、振動や風のある所では使用しないでください。
- マイクスタンドのまわりには、十分なスペースを取ってください。

- サードパーティー製のマイクスタンドアダプター (*1) を本体裏面のネジ穴に合わせて (①)、2 本のネジをしっかりと締めて固定します (②)。



- 本体をマイクスタンドに取り付けます。

- 角度調整ネジをゆるめ (①) 角度を調整し (②)、角度調整ネジをしっかりと締めて固定します (③)。



*1:サードパーティー製のアクセサリについては、ヤマハプロオーディオウェブサイトをご参照ください。https://www.yamahaproaudio.com/

一般仕様


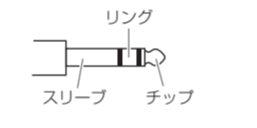

0 dBu = 0.775 Vrms シグナルジェネレーターの出力インピーダンス:150 Ω

特に指定のない場合、ツマミはノミナル位置。

周波数特性	入力チャンネル → STEREO OUT	+0.5 dB/-0.5 dB (20 Hz ~ 20 kHz)、refer to the nominal output level@1 kHz、GAIN ツマミ：最小
全高調波歪率 (THD+N)	入力チャンネル → STEREO OUT	0.01 % @+8 dBu (20 Hz ~ 20 kHz)、GAIN ツマミ：最小 0.003 % @+18 dBu (1 kHz)、GAIN ツマミ：最小
ハム & ノイズ *1 (20 Hz ~ 20 kHz)	入力換算ノイズ	-1.28 dBu (モノラルインプットチャンネル、Rs：150 Ω、GAIN ツマミ：最大)
	出力残留ノイズ	-1.02 dBu (STEREO OUT、STEREO LEVEL ツマミ：最小)
クロストーク (1 kHz) *2		-88 dB
	6 チャンネル：モノラル (MIC/LINE)：2、ステレオ (LINE)：2	
出力チャンネル		STEREO OUT：2、PHONES：1
バス		STEREO：1
	PAD	26 dB
	HPF (ハイパスフィルター)	80 Hz、12 dB/oct
	HIGH：ゲイン：+15 dB/-15 dB、周波数：10 kHz シェルビング	
	LOW：ゲイン：+15 dB/-15 dB、周波数：1.00 Hz シェルビング	
	PEAK LED	イコライザー後の信号がクリッピング (+11 dBu) の手前 3 dB に達すると点灯
レベルメーター	STEREO LEVEL つまみ調整後	2 × 7 ポイント LED メーター (PEAK (+11)、+6、+3、0、-3、-10、-20 dB)
内蔵デジタルエフェクト (MGO6X)	SPX アルゴリズム	6 種類
ファンタム電源		+48 V
電源アダプター		MU18 (DC12 V/1.5 A、ケーブル長 = 1.5 m)、100 V - 240 V、50 Hz/60 Hz (またはヤマハ推奨の同等品)
消費電力		12 W
寸法 (幅×高さ×奥行き)		149 mm × 62 mm × 202 mm
質量		MGO6X：0.9 kg、MGO6：0.9 kg
オプション (別売) 品		サードパーティー製マイクスタンドアダプター *3
動作環境温度		0 ~ +40℃

*1：ノイズはA-weightingフィルターで測定。*2：1 kHz バンドパスフィルターで測定。*3：サードパーティー製のアクセサリについては、ヤマハプロオーディオウェブサイトをご参照ください。https://www.yamahaproaudio.com/
※この取扱説明書では、発行時点の最新仕様で説明しております。最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてお読みいただけますようお願いいたします。

端子の極性 (ピン配列)

入出力端子	端子の極性	バランス / アンバランス	端子の形状
MIC/LINE 1/L、2/R STEREO OUT L、R	ピン 1: グラウンド ピン 2: ホット ピン 3: コールド	バランス型	XLR コネクター <p></p>
MIC/LINE 1/L、2/R* STEREO OUT L、R*	チップ: ホット (+) リング: コールド (-) スリーブ: グラウンド	バランス型	TRS フォーンプラグ <p></p>
PHONES	チップ: L リング: R スリーブ: グラウンド	—	TS フォーンプラグ <p></p>
LINE 3/4、5/6	チップ: シグナル スリーブ: グラウンド	アンバランス型	

*アンバランス型のTSフォーンプラグも使用できます。

注記

- やむをえず本体のバランス (平衡) 出力をアンバランス (不平衡) 機器に接続する場合は、各機器間のグラウンド電位を合わせてください。グラウンド電位が違うと、機器が故障するおそれがあります。
- アンバランス (不平衡) 機器接続ケーブルの配線は、ピン 1: グラウンドとピン 3: コールドを接続してご使用ください。

注記 (ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱い / お手入れに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。この機器またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- 直射日光のあたる場所 (日中の車内など) やストーブの近くなど極端に温度が高くなる所、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- この機器上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。この機器のパネルが変色 / 変質する原因になります。
- 手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色 / 変質する原因になりますので、使用しないでください。
- 機器の周囲温度が極端に変化して (機器の移動時や急激な冷暖房下など)、機器が結露しているおそれがある場合は、電源を入れずに数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。結露した状態で使用すると故障の原因になることがあります。
- 電源アダプターは、この機器から十分に離してください。この機器に雑音が生じる場合があります。
- イコライザーや LEVEL ツマミをすべて最大には設定しないでください。接続した機器によっては、発震したりスピーカーを破損したりする原因になることがあります。
- スピーカーの故障を防ぐために、電源を入れるときは、最後にパワーアンプの電源を入れてください。また、電源を切るときは、最初にパワーアンプの電源を切ってください。
- 使用後は、必ず [⏻] (スタンバイ / オン) スイッチを切りましょう。

■ コネクターに関する注意

XLR タイプコネクターのピン配列は、以下のとおりです (IEC60268 規格に基づいています)。1: グラウンド (GND)、2: ホット (+)、3: コールド (-)

お知らせ

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

安全上のご注意

必ずお守りください

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

「警告」と「注意」について

誤った取り扱いをすることで生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさや切迫の程度を区分して掲載しています。

	警告	「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
---	-----------	---------------------------------

	注意	「傷害を負う可能性または物的損傷が発生する可能性が想定される」内容です。
---	-----------	--------------------------------------

記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意喚起を示す記号
	禁止を示す記号
	行為を指示する記号

- この製品の内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。
- データが破損したり失われた場合の補償や、不適切な使用や改造により故障した場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

警告


電源/電源アダプター

-  電源コードが破損するようなことをしなさい。
 - ストーブなどの熱器具に近づけない
 - 無理に曲げない
 - 傷つけない
 - 電源コードに重いものをせなさい
- 感電や火災の原因になります。


 電源はこの機器に表示している電源電圧で使用する。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

 電源アダプターは、必ず付属のもの (MU18) またはヤマハ推奨の同等品を使用する。また、付属の電源アダプターをほかの製品に使用しない。

故障、発熱、火災などの原因になります。ただし、日本国外で使用する場合は、付属の電源アダプターを使用できないことがあります。お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。


 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。感電やショートのおそれがあります。

分解禁止

 この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。


水に注意

-  この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
- 浴室や雨天時の屋外など湿気が多いところで使用しない。


内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

 めれた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。


火に注意

 この機器の上に、ろうそくなど火気のあるものを置かない。ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら

 下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。


- 電源コード / プラグがいたんだ場合
 - 製品から異常なおいや煙が出た場合
 - 製品の内部に異物が入った場合
 - 使用中に音が出なくなった場合
- そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。


 この機器や電源アダプターを落とすなどで破損した場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。


感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

注意



電源/ 電源アダプター


 電源アダプターは、布や布団で包んだりしない。熱がこもってケースが変形し、火災の原因になることがあります。

 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。


 長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置

-  不安定な場所に置かない。この機器が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。
-  塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しない。故障の原因になります。


-  この機器を移動するときは、必ず接続ケーブルをすべて外した上で行なう。ケーブルをいためたり、お客様やほかの方が転倒したりするおそれがあります。

接続


-  ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行なう。
- 電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器の音量 (ボリューム) を最小にする。


感電、聴力障害または機器の損傷になることがあります。

手入れ


 この機器の手入れをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電の原因になることがあります。

取り扱い


 この機器のパネルのすき間に手や指を入れない。お客様がけがをすおそれがあります。

 この機器のパネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

-  この機器の上のつったり重いものをせたりしない。
- スイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。


この機器が破損したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。

 大きな音で長時間ヘッドフォンやスピーカーを使用しない。聴覚障害の原因になります。

[⏻] スイッチを切った状態 ([⏻] スイッチがスタンバイの状態) でも微電流が流れています。スタンバイ時の消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

(PA-1)

機種名 (品番)、製造番号 (シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでも自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。
機種名
製造番号
(bottom_ja_02)

		保証書		
	品名	ミキシングコンソール		
	※品番			
	※シリアル番号			
	保証期間	本体	お買上げの日から1年間	
	※お買上げ日	年	月	日
		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
お客様	ご住所			
	お名前	様		
	お電話	()		
ご販売店様へ ※印欄は必ずご記入ください。				

保証規定

- 保証期間中、正常な使用状態 (取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態) で故障した場合には、無償修理を致します。
- 保証期間内に故障して無償修理をお受けになる場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ、お買上げ販売店にご依頼ください。
- ご増設品、ご転居後の修理についてお買上げの販売店にご依頼できない場合には、ヤマハ修理ご相談センター* にお問合わせください。
- 保証期間内でも次の場合は有料となります。
 - 本書のご提示がない場合。
 - 本書または購入を証明する書類 (レシート、売買契約書、納品書など) にお買上げの年月日、お客様、お買上げの販売店の記入がない場合、及び本書の字句を書き替えられた場合。
 - 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - お買上げ後の移動、輸送、落下などによる故障及び損傷。
- 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧などによる故障及び損傷。
- お客様のご要望により出張修理を行う場合の出張料金。
- この保証書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
- この保証書は再発行致しかねますので大切に保管してください。
- この保証書は本書に示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様に法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買上げの販売店、ヤマハ修理ご相談センター* にお問合わせください。
- ご購入いただきましたお客様のお名前、ご住所などの個人情報とは、本保証規定に基づく無料修理に関する場合のみ使用致します。取得した個人情報は適切に管理し、法令に定める場合を除き、お客様の同意なく第三者に提供することはありません。
- ※その他の連絡窓口につきましては、本取扱説明書をご参照ください。


アフターサービス

お問い合わせ窓口

お問い合わせや修理のご依頼は、お買い上げ店、または次のお問い合わせ窓口までご連絡ください。

●機能や取り扱いに関するお問い合わせ

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

 **0570-050-808**
*固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **03-5488-5447**

受付時間

月曜日～金曜日 11:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)
オンラインサポート https://jp.yamaha.com/support/

●修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

 **0570-012-808**
*固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **053-460-4830**

FAX **03-5762-2125** 東日本 (北海道 / 東北 / 関東 / 甲信越 / 東海)
06-6649-9340 西日本 (北陸 / 近畿 / 中国 / 九州 / 沖縄)

修理品お持込み窓口

東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島 2丁目 1-1
JMT 京浜 E 棟 A-5F
FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター
〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中 1丁目 13-17
ナンバ(本ビル) 7F
FAX 06-6649-9340

受付時間

月曜日～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)

●販売元

(株)ヤマハミュージックジャパン PA 営業部
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 41-12
KDX 箱崎ビル
*名称、住所、電話番号、営業時間、URLなどは変更になる場合があります。

ヤマハプロオーディオ ウェブサイト
https://www.yamahaproaudio.com/japan/

ヤマハダウンロード
https://download.yamaha.com/